

令和2年度第1回東葛南部地域保健医療連携・地域医療構想調整会議委員からの意見及び県回答について

(1) 届出による有床診療所の開設について

①医療法人社団マザー・キー（(仮称) ファミール産院いちかわ)

| | 意見 | 回答 |
|---|--|---|
| 1 | <p>周産期医療において市川市内の産院の継承に関しては賛成です。</p> <p>周産期医療においては、常時救急に対する備えが必要であり、24時間の救急体制並びに地域の医療機関との連携体制を十分に確保し、夜勤を含めた医療スタッフを整備されることを要望します。</p> | <p>【医療法人社団マザー・キー 回答】</p> <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>当施設に常駐する常勤医師2名に加え、グループ内にも常勤、非常勤医師が複数名在籍し、相互サポートする体制を整えております。</p> <p>またご存知の通り、産婦人科は元来、24時間365日運営が基本で、医療スタッフはそれに応じたスタッフが従事しております。</p> <p>前施設からのスタッフに加え、新規採用も積極的に推進しつつ、千葉県内に在職するグループ内の医療スタッフも相互サポートいたします。残る課題は、地域の医療機関様との連携ですが、早期にご挨拶と連携手続きを進めます。</p> <p>すでに医師会への加入手続き、近隣医療機関への連携についても進め始めていますが、行き届いていないことが多々あると思いますので、地域の先生方には、引き続き、ご指導、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。</p> |
| 2 | <p>産科・分娩体制の維持はぜひ必要と思います。</p> | <p>【県回答】</p> <p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。</p> |

(1) 届出による有床診療所の開設について

②医療法人社団小羊会（船橋訪問クリニック）

| | 意見 | 回答 |
|---|--|--|
| 1 | 船橋クリニックについては、訪問診療、人工透析、リハビリなどの機能を有するほか、在宅患者の急変時における受け入れにも対応可能なことから、本市における在宅医療の拠点としての機能が期待できるため、有益であると考えます。 | 【県回答】 ご意見いただきまして誠にありがとうございます。 今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。 |
| 2 | 開設は地域医療にとって有益と考えます。 | 【県回答】 ご意見いただきまして誠にありがとうございます。 今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。 |
| 3 | 地域にとって有益と考えます。 | 【県回答】 ご意見いただきまして誠にありがとうございます。 今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。 |
| 4 | 今後、予想される高齢者対応のため、必要と思います。 | 【県回答】 ご意見いただきまして誠にありがとうございます。 今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。 |

(2) 2025 年に向けた医療機関毎の具体的な対応方針について

①国際医療福祉大学市川病院

| | 意見 | 回答 |
|---|---|---|
| 1 | <p>回復期リハビリテーション病院は、東葛南部医療圏においてはすでに充足しているのではないのでしょうか。地域包括ケア病床であれば市川地区の医療機能体制整備に貢献すると思いますがいかがでしょうか？この医療圏での結核患者の治療施設として重要であり、是非継続して頂けるようお願い致します。</p> | <p>【国際医療福祉大学市川病院 回答】</p> <p>現状として、当院回復期リハ病棟への転院希望者は多く、現在の回復期リハ病棟ベッド数では十分な対応ができない状況です。</p> <p>(転院をお断りするケース、やむを得ず当院急性期病棟に入院していただくケースなどがあります)。</p> <p>病床稼働率も直近では、6月平均75%、7月平均91%と急増しており、例年稼働率が低下する8月も80%台を維持しております。</p> <p>本学成田病院には回復期リハ病棟がありません。よって、本学医学部および保健医療学部(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科)学生のリハビリテーション医学についての臨床実習は当院で行うこととなります。本学学生に充実したリハビリテーション臨床を経験/履修を行うには、現状の回復期リハ病棟のベッド数では不十分です。</p> <p>今年7月からリハビリテーション科常勤医が4人となったため、より多くの回復期リハ病棟入院患者に対応できるようになりました。(今までは、医師のマンパワーの点から回復期リハ病棟のベッド数を最大限活用できませんでした)。</p> |

| | | |
|---|---------------------------------|--|
| | | <p>現在の一般病床(急性期)137 床の運営は困難であり病床稼働確保が難しい状況です。</p> <p>よって神経難病センター(障害者施設入院基本料)開設により病床稼働率の向上を図りたいと考えております。</p> <p>尚、一般病床の稼働率が上がらない中での地域包括ケア病棟の運営はさらに厳しいものと思料いたします。</p> <p>結核病棟については現在専門医が1人ですが、合併症、重症患者等においては、他科の応援の下対応していく所存です。</p> |
| 2 | <p>グループ病院間での機能分担はよい方策と考えます。</p> | <p>【県回答】</p> <p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。</p> |

(3) その他

| | 意見 | 回答 |
|---|---|--|
| 1 | 直接関連のない問題ですが、秋以降のインフルエンザ流行期を迎え、コロナウイルス感染者に対する専門病院あるいは病床の拡充について、再検討を希望します。 | 【県回答】 ご意見いただきまして誠にありがとうございます。 時期に応じた新型コロナウイルス感染症の感染者の発生状況を踏まえたうえで、関係医療機関と調整のうえ、必要な病床数の確保に努めてまいります。 |
| 2 | 今回のコロナの重症者受け入れに関して、高度急性期医療病床を多く有する医療機関においては、医師、看護師、その他医療スタッフも多く在籍し、高度な診療体制が整備されているかと思われますので病床の5（～10）%程度の数の新型コロナウイルス感染患者の受入の検討を望みます。 | 【県回答】 ご意見いただきまして誠にありがとうございます。 新型コロナウイルス感染症に係る重症者の受入れにあたっては、それ以外の疾患の患者に対する医療の確保も適切に図ることができるよう、病床確保に努めてまいります。 |